

「瀬戸少年院視察研修」



瀬戸少年院前



国宝茶室如庵にて

「陶器を作るがごとく人格を陶冶(とうや)し、不用な陶土を洗うがごとく非行の弊害を除去淘汰する」
 中庭から見えるその風景は、まるで禅寺のように静かで清浄な佇まいです。
 職業指導の陶芸科の教室には、入院中の少年らによる作品が、ぎしりと並べられております。どれも秀作とは言えませんが、勢いのある作品ばかりです。きつと一生懸命に集中して作ったに違いありません。どんな思いで土をこねたのでしょうか。子ども達の気持ち想像しながら見学させて頂きました。
 教育調査官の國枝氏には、長時間に亘って懇切丁寧にお話を頂きました。内容も然ることながら、その大らかで裏表のないお人柄が素晴らしく、尊敬されるに値する人物であると、陶器のごとく、ずしりと心に留まりました。尊い経験をさせて頂きました。



石川県更生保護有功者顕彰式典

平成三十年度 石川県更生保護有功者顕彰式典

非行や罪を犯した人たちの更生と犯罪予防に貢献した人々を表彰する式典が十一月二十七日、県地場産業振興センターで開催された。県内の二百三十四名と十四団体に贈られ、当保護司会から次の三十三名が表彰された。

- 法務大臣感謝状 (チャリティ作家) 相神 眉鶴
- 全国保護司連盟理事長表彰 近藤 悦子・谷 京子・長崎 智子
- 根上 康平・日野 晃子・平野 俊也
- 日本BBS連盟会長表彰 中川 和信
- 石川県知事感謝状 清水 優
- 中部地方更生保護委員会委員長表彰 青森 達夫・新川 賢・亀田 美穂
- 澤田 壽子・辰巳 明伸・元山 洋
- 横山 英昭
- 中部地方更生保護委員会委員長感謝状 (チャリティ作家) 山岸 大成
- 中部地方保護司連盟会長表彰 押野 瑞代・加茂 隆夫・俵 秀雄
- 道願 満善・南部 仁志・廣島 伸治
- 由田外喜夫
- 中部地方保護司連盟会長表彰 (内助功労者) 中川 則子
- 金沢保護観察所長表彰 福島日出夫
- 金沢保護観察所長感謝状 宮本 紀美
- 金沢保護観察所長感謝状 (チャリティ作家) 北 長八・斉藤 敏明・田方 勇
- 石川県保護司会連合会会長表彰 森本 栄史・北原 華蓮・福田 緑



自主研修会
と
新年懇親会

平成三十一年一月十四日、粟津温泉「おびし荘」にて、新年自主研修会が開催されました。講師は、本年度、開学した公立小松大学の学長である山本博氏。講演のテーマは「二百五十名の若者と地域とともに」というものです。集義堂から始まる南加賀地域の教育の原点、大学開学までのプロセス、基本理念と教育理念、受講カリキュラムやサークル活動、大学生にみる現代の若者気質の分析等、その話題は多岐に渡りました。学生が地域に溶け込み、大学を地域

共創のパートナーにしていきたいと語る山本学長。私達、地域住民としても、その意識を醸成、共有していくことが大切だと感じました。保護司会としても、BBS会への学生の入会を要望するなど、学生との連携を求めたものです。講演会終了後は、恒例の新年会。退任される保護司の方に感謝の花束を贈呈し、その労をねぎらいました。支部・分区の枠を越え、誰もがざくばらんに語り合う和やかな新年会。会員相互の関係がより深まりました。

「以春風接人」

チャリティ協力書家 福田 樹峰



書の道を志して半世紀、この間、市内数か所の老人福祉施設等での奉仕活動をさせていただき、入居者・デイサービスの皆さんと、書

を介して生活に潤いと、生きる力に少しでもお役に立てればと思ひ、交流を重ねてまいりました。皆さんが懸命に取り組まれるお姿とその目の輝き、明るい笑顔が、何物にも代えがたい宝です。中には体が不自由で、足の指に筆を挟み、汗をしばり一心不乱に挑戦する仲間もいます。その様子を見て、我が身は健康で不自由なく暮らせることに、自然と感謝の念が湧き上がり、更に親切を盡すべきと自身に云い聞かせました。

この世には、理屈で割り切れないものがあります。その一つに、不遇な人のできる限りの親切を盡せば、己が苦しい時、どこからともなく手を差し伸べて下さり、身内を助けて頂く(身内に返ってくる)ことがあります。皆さんにも思い当たることがあると思ひます。この不思議な天の配剤を、齢を重ねるごとに、少しずつ乍ら解ってききました。



公開ケース研究会 能美市立辰口中学校



●生徒の感想より

Aさん

今日初めて保護司という言葉を知りました。はじめは、やっぱり敵しいのかなと怖かったのですが、皆さんとてもやさしくて、個人の意見をとてもまじめにきいて下さったのが、うれしかったし、こちらも勉強になりました。ビデオを見て私は、ビデオの主人公との共通点がいくつもありました。私も今一度、自分の道を見直してみようと思いました。

Bさん

ビデオを見て素直に「こわい」と思った。今まで、未成年なのに、たばこを吸ったり、お酒を飲んだりしている人は間違っている、ダメな人達だと思っていたけど、今日ビデオを見て、すごく身近な事のように思えた。同時に、もし周りにそのような人がいたら、話を聴き、しっかりと受け入れようと思った。

周りの環境が「心」に大きく関わっていると改めて感じたので、これから自分の行動に責任をもつていこうと思う。

Cさん

今日の話を書きいて二つの大切なことを学びました。一つ目は犯罪のおそろしさです。何か物をつ盗っただけ、誰かとぶさけて暴力をしてみました、ささいなことでも犯罪になってしまうことがとてもこわいと思いました。そして犯罪をすることで周りの多くの人に迷惑がかかり、悪影響しかおよぼさないことがわかりました。二つ目は、生き方です。自分は人にすぐ流されてしまう性格があるから、はつきりとyes・Noを言える人になりたいと思いました。

最後に各グループの発表者がグループで話し合った内容について発表し、保護司も一人ずつ感想を述べました。ほとんどの生徒達は保護司について知らないようでしたが、この交流を通して、保護司の活動を理解してもらおうことができました。

その後、各クラス五グループに分かれ、保護司の進行でビデオの感想、いじめや万引きやネットによる中傷等話し合いをしました。生徒たちは自分のこと、自分の家族や友だちのことも振り返り、非行防止について真剣に考え、取り組んでいました。



定例研修

第二期



「住居の定まらない対象者への処遇について」をテーマに九月十三日、寺井地区公民館で研修会が行われました。住居の確保が再犯防止に重要な事は明白な事実である事から、更生保護施設及び自立準備ホームの役割等について学びました。県下には四つの施設団体が登録され、対象者の事情は個々に異なり複雑な上、対象者が納得しなければ対応が困難という問題を抱えています。二つの事例検討が提示され、解決への対応は幾通りも予想されました。最後に沢山の質問があり充実した研修会でした。

第二期



「再犯防止施策の推進について」をテーマに、十一月十三日小松市第一地区コミュニティセンターにて行われました。国の再犯防止推進計画を受け、県および各市町で地方再犯防止推進計画策定作業に関わっていくことが想定されます。保護司会においても、様々な取り組みへの準備を行っています。そして、前田保護観察官から保護観察における定期的な往訪の必要性や、パソコン利用・資料の取り扱いの注意点を、お話しいただきました。

社会参加活動

社会福祉法人「ポニユール根上苑」

協力組織部会の社会参加活動は、十月十日、能美市の社会福祉法人「ポニユール根上苑」で行いました。作業内容は一階から三階までの外側の窓拭きで、参加者は対象者九名とその保護者二名、保護司十八名、更女二名、前田観察官の計三十二名もの方が参加しました。

当日は、近くの道路工事のため、予定の時間になっても全員が揃わず、今にも雨が降りそうな気配の中、玄関先で作業の説明をし、早々に取りかかりました。作業用具等を忘れ、靴や服が濡れるのを気にしていた対象者がいましたが、トラブルもなくどうにか作業を終えました。別館の一階も作業の追加要請があり、雨の中、皆さんの協力で無事終了することが出来ました。最後に会議室で施設長からお礼の言葉と、利用者の方々の喜びの様子を聞き、悪天候にもかかわらず一時間あまりの作業でありましたが、皆さん心も軽やかな気持ちで解散となりました。



学んできました

心に残った事

県外研修より

中部地方保護司代表者 協議会に参加して

杉本 雅規

十月二十五日、二十六日、名古屋にて中部地方代表者協議会に参加しました。当日は、中部六県から保護司の代表が参集し、更生保護活動の諸問題について研究協議を行いました。

初日は分散会協議（意見発表・協議）を行いました。協議事項は保護司の安定的確保についてと、更生保護サポートセンターの活用法および、設置に関する課題についてです。

二日目は全体協議（分散会協議結果報告・質疑応答）でした。中部管内の各保護観察所の保護司充足率は九十・七パーセントで、依然不足していること。また更生保護サポートセンターは三百一か所の設置が本年度に予定されているが、サポートセンターの設置には、行政との連携が必要であることなど、いろいろな課題について幅広く協議しました。

中部ブロック再犯防止

シンポジウムに参加して

中川 和信

再犯防止シンポジウムが十二月十八日に名古屋市内の名鉄ニューグランドホテルで開催され、中部六県から更生保護に携わる方々など約三百人が参加して開催されました。

「刑務所出所者等に対する就労の確保」と題して、協力雇用主、刑務所出所者の就労支援に携わる四名のパネラーによるパネルディスカッションが行われました。

協力雇用主の建設関係の社長さんは、雇用しても給与の振込口座を作れないなど社会の問題点もあると指摘され、根気よく見守る必要性を強調されました。

立ち直りは、いろいろの人が関わり、切れ目のない息の長い支援が必要であり、一般社会の中で支えていくことが重要であるとのことでした。今後、公的な機関において就労支援だけでなく定着支援が始まっている報告もありました。

再犯防止は、まずは就労による社会の一員となり、生活の安定を図ることが重要であるので、広く就労支援そして定着支援を押し進めていくことを痛感したシンポジウムでした。

保護司等中央研修会に

参加して

平野 俊也

九月二十七日(木)東京日経ホールにて保護司等中央研修会が開催された。講師は荒井省吾奈良県知事で「地方公共団体からみた保護司との新しい連携への期待」というテーマでご講演をいただいた。

「心に残った二つの事」
国との横の結びつきも大事だが、更生の現場である地域の結びつきも大事である。

地方では出所者の就労、生活支援、薬物依存対策、教育等の身近な問題はあるが、国の更生保護施策との連携の例は少ない。今後、自治体の施策と保護局や矯正局など法務関係との連携の施策がキーになっていくと思う。

出所者の更生を成功させるには、社会にある色々な制度に更生者を結びつける必要がある。就労、薬物依存からの脱却、自立的生活確立のための各施策は地域に多くあると思うが、保護司をはじめとする更生保護施策と連携している程度である。

犯した個人を自己責任と切り捨てるのではなく、罪の背後にある社会の構造的な問題に目を向け、罪を犯さざるを得ない現状を改善するのは地方行政の大きな役割である。

第六十八回 社明作文コンテスト 県連推薦

◆優秀賞 石川県保護司会連合会会長表彰

「小さな心がけて社会を明るくしよう」

川北町立川北中学校一年 影田 結美菜

今年の夏休みに「社会を明るくする運動」の運動作文を書こう」という課題が出ました。

私は「社会を明るくする運動って何?どんなことを書けばいいの?」と率直に思い、戸惑いました。それは「これまで、「明るい社会づくり」について私が考えたことがないからだ」と気づきました。そこで、「社会を明るくするためににはどのようなことが思いつくか?」を考えてみることにしました。

夏休みの間も、新聞やテレビでは窃盗や暴行を何度も犯した容疑者が逃走したという事件、殺人事件、詐欺事件、禁止薬物の乱用など犯罪に関する様々な報道が毎日のようになされています。

安全で安心できる社会は、全ての人々の望みです。インターネットで、犯罪や非行をなくすためには、どんな取り組みがされているかを調べると、大きく二つのことが行われていることを知りました。

一つ目は犯罪の取り締まりの強化、罪を犯した人を処罰すること。二つ目は立ち直ろうと決意した人を社会で受け入れていくこと。三つ目は犯罪や非行する人を生み出さない家庭や地域づくりをすることです。

二つ目と三つ目の取り組みには、「保護司」の役割が大きいことがわかりました。そこで保護司についても調べてみることにしました。

保護司は明治時代に日本で生まれた制度で、犯罪を犯した人が社会復帰できるように無償でサポートする人です。私が驚いたのは、保護司の方々は、普通の民間の人がボランティアでされていることです。日本の保護司制度は海外でもお手本となっていて「フィンランド」では、保護司の活躍で仮釈放中の再犯率が「パーセント」に下がったという報告がありました。犯罪や非行を減らすために保護司の方の力が大きいことがわかりました。

東京で二十年間保護司として活動されてきた中澤照子さんは、自宅の小さなテーブルで保護司として手作りのカレーを振るまいながら、「元気?」「飯食べた?」など辛抱強く、相手の気持ちを大事にした会話を重ねながら、信頼関係を築いていかれたそうです。そして、多くの方の社会復帰や自立を支援されてこられました。

私は、中澤さんの記事を知り、犯罪や非行をなくす取り組みには、地域のすべての人々が、自分ができる立場で関わっていることが大事であ

り一人ひとりができる小さなことがあるという事に気がきました。日本では、再犯率が高くなっている現状で保護司制度の重要性が指摘されています。しかし、地域のつながりが希薄になっている現代において、ボランティアで行う保護司をしてくださる人が見つからないという問題があります。また、全国の保護司の八割が六十歳以上になっており、十年後には、保護司が半減するという見通しもあるようです。

この保護司の世代交代の問題は、今日の日本社会における様々な分野の課題でもあります。日本が作り出した世界に誇る「保護司」になってみようかな。と思う人が、研修できるプログラムの充実や資格制度や支援活動がしやすい国のサポートなどがあれば、保護司制度が維持されていくのではないかと思っています。

人はちよつとしたきつかけで、やる気が出たり、頑張れたり、また落ち込んだり元気がなくなったりします。中澤さんは

「人と向き合うには、畳半畳あつたら十分。どんなに広く立派なお家だつて受け入れる気持ちが狭かつたら、心は通わせられない。気持ちの間口は広い、人を受け入れる奥行きは広い」という気持ちでいるんです。」とおっしゃっていました。

私はこの作文の課題に取り組みにあたり、誰かを支えたり、支えてもらったことや役立つ事をする。そして社会を明るくする取り組みは、すぐ難しいことであるところを、身近にできることを心掛けることから始めたいと思いました。

「周囲の人に笑顔で接する」「誰かが話したときはまっすぐ「聴く」「人との出会いを大事にしていく」「元気がない友達や周囲の人に寄り添っていく」という、小さい頃から周囲の大人に言われてきたことを丁寧に実行していきたいと思いました。

しかし、私は臆病で、なかなか自分から声をかけたり行動できない性格です。そんな自分を変えていきたいと思いました。きつとすぐに変われないと思うし、変えようと思うと気持ちがつらくなります。でもちよつびり勇気を出して、困っている人に声をかけたり、自分も困っている時に、「助けてください。」と言えようようにしていこうと思います。

そして私も人の気持ちを受け入れる間口の広い人になりたいです。犯罪や非行のない暮らしやすい社会をつくるのは、一人ひとりの力が土台になっていることを忘れず、地域全体で支え合い、励まし合える社会づくりに参加できる大人になりたいと思います。

◆優秀賞 石川県更生保護女性連盟会長賞

能美市立辰口中学校三年 判 琴 羽

退任にあたり

川越 英清



平成三十年十月十日付けをもつて、保護司を退任致しました。今思えば、平成十四年十月十日当時会長の北川彰先生から保護司へのお願いがあり、仕事の内容も分からない中で引き受け致しました。研修も終了し、さうそく対象者のお願いがあり、どのように対応したら良いか戸惑いながら、なんとか対応ができた安堵したことを思い出します。当時は、記念誌作成の仕事もあり、資料の整理を致しますと、写真の資料が少ないことがわかり、大変苦労したことを思い出します。それ以来、カメラを持ち歩くようになり、保護司の行事には撮影を心がけておりました。十六年間保護司会に携わってきましたが、会員の皆様の教えや協力があり、無事に退任することができました。

最後になりましたが、保護司の皆様のご活躍とご健康をお祈り致しております。本当にありがとうございました。

山川 芳明

平成二十八年十月に保護司に任命され、二年という短い期間でありましたが、二件のケースを引き受けました。二件とも困難さはそれほどもなく、初任者にとって扱いやすいケースであったと思います。このケースのことではありませんが、保護活動の時、時折思い出すことがあります。それは米国の研究結果で明らかになったスーパーキッズの存在であります。きわめて劣悪な環境の中に育ったにもかかわらず、その環境の影響を受けず、親しみのある人間関係を築くのがうまく、家庭が機能しない時は、程よく距離をとることのできる子供です。日本と米国とは、文化も歴史も違いますから、そのまま適用できないと思います。が、退任した後時折思い出しています。

教育現場からの声



小松市立丸内中学校 校長 宮本 肇

丸中健児は意気高し

本校の中庭には日々継承されてきた「希望の鐘」があり、月例集会の冒頭に体育館まで鐘の音を響かせる。張りつめた緊張感の後、校歌を斉唱する。

♪かけはしの川の堤の浅みどり
そよ吹く風は春を告げ



①甘やかすより甘えさせてあげ
②アドバイスより話を聞いてあげる(傾聴)
③ほめるよりありがと
うを伝える
④夢や希望を語るこ
が大切と話
した。甘え
る壺をいつ
ぱいにして

小松支部だより

小松更女の研修会が十二月十五日、小松市第一地区コミュニティセンターであり、多賀クリニックの小児科医多賀千之さんが「子どもたちのやる気スイッチを入れる」と題して講演した。子どもたちのやる気を引き出すには、

いけば、子どもたちは自然と自立していく。甘える壺の大人版は、話を聴くこと。 「愛情とは、自分の時間をあげる」と心に残る言葉だった。話に引き込まれ、あつという間の一時間四十分だった。保護司会九名を含む六十名が参加して盛況だった。

能美支部だより

能美支部では、保護司が持っているケースについて、保護観察の難しさや悩みごとについて、体験談を出し合い、良好な保護観察ができるよう自主研修を重ねています。

今回も十二月十二日に辰口福祉会館で行い、立ち直りを助ける保護観察について、自主研修を行いました。保護観察には教科書はなく、対象

者にあつた対応が求められることから、困難な対応など経験された話は参考になり、特に経験の浅い保護司さんには良い相談相手となります。研修の後は、懇親会を開催しました。日常的な会話や更生保護に関する話など楽しい時間を過ごすことができました。保護司同士の交流でき、保護司会活動の運営に大変有意義な機会となっています。



今後も能美支部では、こうした懇談会や交流会を通じて保護司同志がより良い更生保護活動をしていくことを目的に継続的自主研修を重ねていきます。

わが校庭に花匂う
若き希望は溢れ湧き
少女(おとめ)は清く麗しく

丸中健児は意気高し

校歌の作曲者が藤山一郎氏と聞いてびつくり、さすがメロディーが美しい。最後の一節、丸中健児は意気高し。の歌声はひとときわ大きい。この一節が、本校の教育の根幹をなしているのである。生徒達の誇らしい歌いっぷり、立ち姿にその意気を感じ。素晴らしいことである。その口ゴは部活動Tシャツにバックプリント

されているが、一人ひとり自慢げでその背中が大きく見える。

昨今、グローバル化の中で地域離れ、コミュニティの希薄化が課題の一つ

になっている。子どもたちが将来、地元でも活躍する人材として地域に根差すには、三年間の学校生活の中でこそ育める「母校愛」が大切であると考える。これからも校歌の一節を大切に、本校の教育目標「心身ともに健康で、自主自律の精神に富み、人間性豊かな丸中生徒の育成」を目指して邁進していきたい。

小松能美保護区保護観察件数等/2月1日現在の増減比較数

単位(件)

種別	1号	2号	3号	4号	環境調整	
家庭裁判所 で保護観察 処分を受けた 者	14	1	2	5	12	
少年院から仮 退院を許され た者	10	0	3	8	12	
刑務所から仮 出所を許され た者	増減	-4	-1	1	3	0

最近の保護観察件数等の動向

保護観察事件について、全体では昨年並みの件数となっている。少年の件数が減少している一方、成人の件数が増加している。生活環境調整事件については、昨年並みの件数となっている。

編集後記

今号は様々な研修関係が多くなっています。それぞれの内容を一読下さればと思います。また、中学生の影田結美菜さんの作文は、保護司の役割をとらえ一考を投げかけています。幅広い視野で読んでいただければと思います。投稿下さった方々、ありがとうございました。内容等にご意見下されば、今後の参考に致します。

[平野俊也]

※お問い合わせ 事務局
TEL0761-46-5105 FAX0761-46-5108
E-mail hogoshikai@aquaplala.or.jp
URL http://hogoshikai.org

発行日 平成31年3月1日
発行 小松能美保護区保護司会 広報部会
印刷 マルト株式会社